

# 大切な名前

小一

やつときまつた名前なんだよ。』

と教えてもらつたとき、わたしは心がぽかぽかあたたかくなつたのをおぼえています。

わたしの名前は、わたしが生まれたときに、お父さんとお母さんがつけてくれた大切な名前です。

わたしは、この名前をとても

気に入っています。わたしがお母さんのおなかの中にいるときから、お父さんとお母さんはわたしの名前について、二人で何回も話し合つたそうです。

わたしはそのとき、すごくかなしくなりました。「お父さんとお母さんがわたしのためにつけてくれた大切な名前なのに、どうしてそんなよび方するの。」と Aさんに言いたかつたけ

れど、そのときは、ことばが出ませんでした。「いやだな。どうしよう。」心の中で思いながら、何も言えずにこまつていると、Aさんは近くにいたBさんに、そのへんなよび方を教えて、こんどは二人で、わたしをからかつてきました。

今まで、大すきで大切にしていた自分の名前だったのに、そのしゅん間、きゅうにはずかしくなりました。「本当にやめて。」わたしは心の中できなくて、そのばしょからいそいでではなく

れました。そして、たまたま近くにいたCさんに、そのことを話しました。Cさんは、「いやな思いをしているのなら、やめてつて言つてみたら。」と言つてくれました。でも、わたしは、

「すごくいやなんだけど、はずかしくて言えない。」

と答えていました。すると、Cさんは、「じやあ、わたしがかわりに言つてあげるよ。」と言つて、AさんとBさんのところに一人で行つてしまいま

した。

わたしは、おどろきました。

Cさんは、クラスは同じでも、いつもなかよくしているわけではないし、それまでは、わたしもCさんがこまつているとき、たすけたきおくがありません。それなのにCさんは、たまたまわたしがこまつているということを聞いて、すぐに力になろうとしてくれました。

Cさんが、AさんとBさんにはつきり言つてくれたおかげで、一人はわたしの名前だからかうことをやめてくれました。

わたしは、「よかつた。」とほつとしたのと同時に、「Cさん、本当にたすかつたよ。」という気もちでいっぱいになりました。

自分が大切に思つているものを、ふざけてばかにされたり、からかわれたりすることは本当にかなしくて、今までもつていた自しんをなくしてしまうということが分かりました。名前を一生けんめい考えてくれた、わたしのお父さんやお母さんが、もしこの話を聞いたら、わたしと同じくらいかなしい気持ちになつていたと思いま

す。そのときは、自分のことば  
で言えなかつたけれど、こんど  
からは、自分の大切なものは、  
自分の力でまもつていきたい  
と思いました。

わたしはその日から、どんな  
ことがあつても、人のことをば  
かにしたり、からかつたりしな  
いようにしたいと思いました。

人が大切にしているものはそ  
れぞれちがいます。その人の気も  
ちを考えて、ことばやこうどうを  
えらんでいける人になりたいで  
す。

そして、Cさんのように、も

し、近くにこまつて いる友だち  
がいたら、わたしが友だちの力  
になつて、たすけられるようにな  
りたいと思 います。